

船舶事故調査報告書

平成30年2月21日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	火災
発生日時	平成29年7月17日 19時08分ごろ
発生場所	北海道函館湾太平洋セメントシーバース第3バース 上磯港南防波堤灯台から真方位173° 1,400m付近 (概位 北緯41° 48.2′ 東経140° 39.1′)
事故の概要	貨物船PACIFIC CYPRESSは、着岸中、火災が発生した。
事故調査の経過	平成29年7月19日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報	
船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	貨物船 PACIFIC CYPRESS（パナマ共和国籍）、23,273トン 9605097（IMO番号）、BLUE CYPRESS LINE S.A.
乗組員等に関する情報	船長（フィリピン共和国籍）、締約国資格受有者承認証 船長（パナマ共和国発給）
負傷者	なし
損傷	機関室第2甲板左舷側の機関工作室が焼損
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 北西、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏
事故の経過	<p>本船は、太平洋セメントシーバース第3バースに着岸中、平成29年7月17日19時08分ごろ船内の火災警報が鳴った。</p> <p>船長は、昇橋し、機関室第2甲板左舷側の発報であることを火災制御盤で確認した。</p> <p>操機手は、機関室当直中、船橋からの連絡を受けて第2甲板に向かったところ、機関工作室内の収納棚（以下「本件収納棚」という。）付近に炎を認め、持運び式泡消火器2本で消火を試みたが、消火できなかった。</p> <p>船長は、防火部署を発令し、海上保安庁へ通報した。</p> <p>船長は、機関室を密閉して固定式炭酸ガス消火装置による消火を実施しながら、海上保安庁からの通報で来援した消防隊員と共に船内の放水冷却を行った。</p> <p>海上保安庁の巡視艇は、本船船体の放水冷却を行った。</p> <p>本船は、18日17時ごろ、消防隊員により鎮火が確認された。</p> <p>本船は、本事故後、機関工作室が焼損し、本件収納棚の焼損が最も激しいことが判明した。</p> <p>本件収納棚には、ふだん、ラバーガスケットや予備のパーツ等が置かれていた。</p> <p>操機手は、18時30分ごろに巡検した際、機関工作室が無人で火の気がないことを確認した。</p>

分析	<p>本船は、太平洋セメントシーバース第3バースに着岸中、機関工作室から出火したものと考えられる。</p> <p>本船は、本件収納棚の焼損が最も激しかったことから、本件収納棚付近から出火した可能性があると考えられるが、出火に至った状況を明らかにすることはできなかった。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、太平洋セメントシーバース第3バースに着岸中、機関工作室から出火したものと考えられる。</p>